



信用金庫がコロナ禍で躍進!?

信用金庫は銀行とは組織形態が異なり、地域の会員や住民から資金を集めて地域の利益のために働く非営利団体である。

信用金庫の強さは不況時にこそ発揮される。銀行は景気が傾き貸出企業の業績が悪化すると融資の返済を強く求めるようになる。しかし信用金庫は法律により営業エリアが制限されており、無茶な債権回収をするという狭い地域にあつたという間に悪評が広まってしまう。そうした事情もあり、信用金庫は取引先が苦境に陥っても経営の立て直しに尽力する傾向がある。

従来は地域をまたいだ事業支援が難しかった信用金庫だが、現在インターネットで全国の信用金庫と企業がマッチングできるサイト

信用金庫のシェアは

7年連続で拡大

「よい仕事おこしネットワーク」も開設された。サイトにはビジネスレポートナーの募集情報や特産品情報も寄せられており、全国200以上の信用金庫が取引先と共に参加し、顧客の販路拡大や事業連携の機会を創出している。

地銀の経営不安が続く一方信用金庫はコロナ禍で再評価されている。経済の先行き不透明感が増す中、各地の信用金庫と中小企業の取引は飛躍的に増え、貸出残高の増加という形で信用金庫に利益をもたらしている。

明暗を分けたのは、地銀が金利という収益源にこだわったのに対し、信用金庫は利他の経営を貫いたことで顧客からの信用を獲得し、地域での基盤を強くしたことにある。

ナシシジ

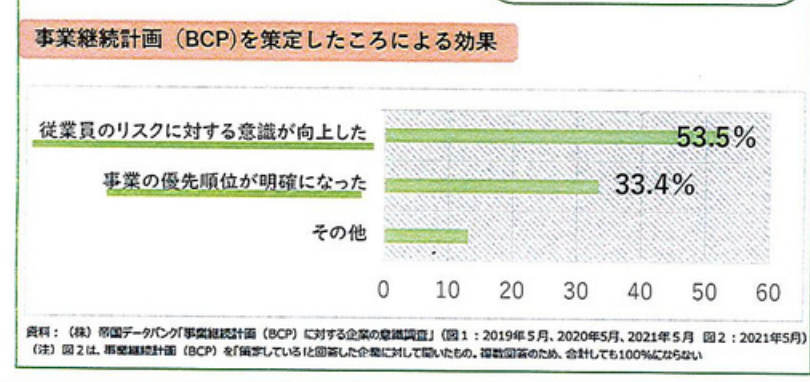
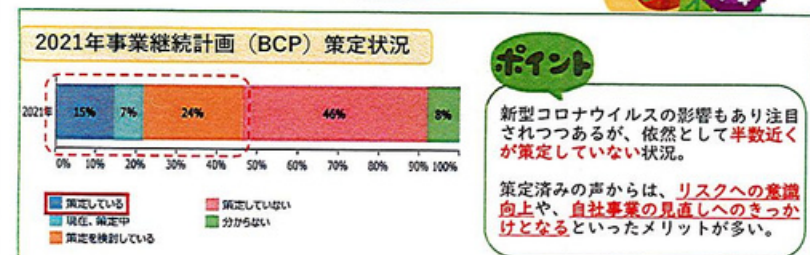
6月



今事業継続計画(BCP)を立てよう!

会社・家族・従業員・取引先と、一人で責任を負うことが多い経営者の方へ、従業員様の意識向上や絆を強固にし、志を共有する為にも、BCPをいま策定しませんか? 改めて事業の見直しをする良い機会になります。社長のビジョンを聞かせて頂ければ、策定のお手伝いを無料で行ってまいります。是非お声掛けくださいませ。

興味深い結果がデータからわかるよ!



金融機関で資金調達 重要なポイント 第2弾「事業性評価」

「事業性評価による融資」とは、一般的な融資(財務データと保証・担保力で判断)にプラスして、事業内容や成長可能性等も評価して融資可否を判断。では、金融機関が見るポイントとは。金融庁公表の「平成26年事務年度金融モニタリング基本方針」を基に、経営者の経営能力、経営理念・ビジョン・企業の強み・将来性・今後の事業計画などで判断します。これらを十分に理解してもらう為に、経営理念・経営ビジョン、企業沿革・事業概要、強みや課題・外部環境分析(SWOT分析)

析)・今後の経営方針・行動(改善)計画、以上をふまえた計画数値を記載した事業計画書を作成し、金融機関に正しく説明することが重要です。決算書が良くない、担保がない場合も自社の強みを説明して資金調達の可能性が広がるよう私どもがお手伝いさせていただきます。

天気と同じ! 事前準備で安心、安全!

赤字企業 転落 原因とは

国稅庁が21年3月26日に公表した国稅庁統計法人稅表によると276万7千36社の内、赤字法人率は6割を超えている。赤字法人率が増加しているのは10産業のうち農・林・漁・鉱業、製造業、運輸業、卸売業の4産業。そこで赤字に転落してしまう企業の原因はなにか、

自分なりに分析してまず「事業戦略」はどうなっているのか、「競争優位性」はどうか、どのマーケットで競うのか、どのような商品戦略を立てているのか。

商品戦略で大事なことは価値、希少性、模範困難性である。ではその価値のある事業戦略を動かすための「組織戦略」はどうか、組織を構成するための「人的戦略」はどうか、赤字企業の経営者に尋ねると戦略が曖昧な方が多い印象を受ける。

コロナ禍の影響はリーマンショック時の債務残高を大幅に上回っている。コロナ融資の返済が9月に延期されたが、リーマンショック時1万8千社を超える企業が破産したようにそれ以上の破産件数が予想できる。

今一度「経営戦略」を見直し、銀行からの格付けを改善していく必要があると考える。

ご意見・ご感想 心よりお待ちしております!

E-mail: info@p-m-g-fukuoka.jp

